

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
敷地 地質・地質構造	全般	1	第368回	2016.6.10	敷地内に分布する構造の全体像を説明した上で、評価対象を選定する過程について説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	2	第368回	2016.6.10	当初設置許可時より重要な安全機能を有する施設が増えているので、断層と重要な安全機能を有する施設の位置関係について説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	3	第368回	2016.6.10	断層と重要な安全機能を有する施設との位置関係において、取水路トンネル付近の地質・地質構造については、その状況がわかるデータを提示し、説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	4	第368回	2016.6.10	敷地内断層は複雑な位置関係にあるので、建屋直下だけでなく他の断面図も示すこと。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	5	第368回	2016.6.10	敷地内断層の深部確認ボーリングを説明した断面図の情報を増やすこと。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	S-1	6	第368回	2016.6.10	S-1がS-2・S-6を越えて重要な安全機能を有する施設下に続いていかないことをしっかり説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	7	第368回	2016.6.10	断層の端部のデータや切り切られの関係がわかるデータを示した上で、評価対象断層の選定の考え方を説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	8	第368回	2016.6.10	設置変更許可申請書における解析用要素分割図(9-9'断面)と地質鉛直断面図(9-9''断面)で、断層分布が異なることについて説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	9	第368回	2016.6.10	S-2・S-6とS-1が共役関係にあるかどうかについて説明すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	S-4	10	第368回	2016.6.10	S-4について、平面図に図示している他のトレンチについても、端部データとしても重要なのでデータを提示すること。	2017.3.10審査会合
敷地 地質・地質構造	年代評価	11	第368回	2016.6.10	中位段丘堆積物や赤色土壌等の年代評価の根拠となるバックデータを示すこと。火山灰データは、採取位置、採取量等も示すこと。	2017.12.8審査会合
敷地 地質・地質構造	年代評価	12	第368回	2016.6.10	遊離酸化鉄分析結果で用いている永塚(1975)のデータが志賀サイトで適用できるか確認すること。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	年代評価	13	第368回	2016.6.10	中位段丘I面について、敷地内の中位段丘I面が5cの可能性がないか検討すること。	2017.12.8審査会合
敷地 地質・地質構造	S-2・S-6	14	第368回	2016.6.10	S-2・S-6の北方に認められる西側が高い地形(凸状地形)の部分だけではなく、S-2・S-6に沿った全体の地形について説明すること。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	S-2・S-6	15	第368回	2016.6.10	S-2・S-6の北方に認められる西側が高い地形(凸状地形)は岩盤上面の起伏を反映した組織地形であるとの評価について、平面図だけでなく断面図も提示して説明すること。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	S-4	16	第368回	2016.6.10	S-4の走向データについて、トレンチ壁面と全体平面図の走向が違っているように見えることについて説明すること。	2018.7.6審査会合

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分	No.	コメント			回答	備考
		開催回	日付	内容		
敷地 地質・地質構造	S-4	17	第368回	2016.6.10	S-4トレンチ南西壁のスケッチについて、説明文にある凝灰質な細粒部の分布について説明すること。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	K-Ar年代	18	第368回	2016.6.10	K-Ar年代分析については、シーム及び周辺の安山岩での試料採取箇所、測定物、カリウムの含有量、非放射性アルゴンの含有量等を整理して提示し、年代値が示す意味を考察すること。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物組成	19	第368回	2016.6.10	断層の鉱物組成について、分析結果のバックデータを示すこと。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物脈	20	第368回	2016.6.10	今後の課題への対応の中で、鉱物脈の確認が6月末となっているが、判断のもとになるようなものを見つかるようトライし、見つかったところで報告してほしい。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物脈	21	第478回	2017.6.23	高温で形成された鉱物脈は確認されていないものの、低温で形成された粘土鉱物(スメクタイト)が粘土脈中に存在することから、このような脈についても検討を行うこと。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	K-Ar年代	22	第453回	2017.3.10	安山岩のK-Ar年代について、年代測定の精度が低い可能性があることからデータの吟味を行うこと。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	23	第478回	2017.6.23	敷地周辺は地震性隆起があり、古い段丘面も分布する特徴的な地形であることから、敷地周辺の地質構造について説明すること。	2017.12.8審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	24	第453回	2017.3.10	断層の切り合い関係の評価について、切られた相方がない場合及び実際の露頭や詳細なスケッチがない場合は、確実度が落ちる。評価対象断層の選定を行うのであれば、別の観点からの選定をしっかりと説明すること。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	25	第478回	2017.6.23	評価対象断層の選定にあたり、断層の性状、規模、運動方向から選定する考え方について、客観的なデータで説明すること。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	26	第453回	2017.3.10	切られた相方がない地点の交差部での詳細な観察データを示すこと。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	27	第453回	2017.3.10	断層評価を行うにあたっては、第3条対象が第4条対象かを明確にすること。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	28	第453回	2017.3.10	断層の端部を止めていない断層については、端部の状況を説明すること。S-4の北東端についても同様。	2018.3.2審査会合(S-4以外) 2018.7.6審査会合(S-4) 2019.10.25審査会合(S-4)
敷地 地質・地質構造	防潮堤基礎部	29	第453回	2017.3.10	防潮堤基礎部のスケッチにおいて、基盤岩が傾斜して見える箇所(3箇所)について写真データ等を追加して説明すること。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	取水路トンネル	30	第453回	2017.3.10	取水路トンネルの破砕部について、海岸部の断層との関係や破砕部の状況について説明すること。	2018.3.2審査会合
敷地 地質・地質構造	全般	31	第453回	2017.3.10	「凝灰質な細粒部」としていた箇所と「破砕部」との関係の説明すること。	2018.3.2審査会合

■ :回答完了 □ :今回回答 □ :次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
周辺 地質・地質構造	段丘面	32	第531回	2017.12.8		
周辺 地質・地質構造	段丘面	33	第531回	2017.12.8	2018.7.6審査会合	
周辺 地質・地質構造	段丘面	34	第531回	2017.12.8	2018.7.6審査会合	
周辺 地質・地質構造	海水準	35	第531回	2017.12.8		
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	36	第531回	2017.12.8		
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	37	第531回	2017.12.8		
周辺 地質・地質構造	富来川南岸断層	38	第531回	2017.12.8		
周辺 地質・地質構造	水準測量	39	第531回	2017.12.8		
周辺 地質・地質構造	物理探査	40	第531回	2017.12.8		
周辺 地質・地質構造	海域	41	第531回	2017.12.8		
周辺 地質・地質構造	海域	42	第531回	2017.12.8		
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	43	第553回	2018.3.2	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	44	第553回	2018.3.2	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	45	第553回	2018.3.2	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (鉱物組成)	46	第553回	2018.3.2	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合	

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (鉱物組成)	47	第553回	2018.3.2	輝石のような固溶体では、ピーク自体が大きくないことや斜長石のピークの間にあることから、XRD分析では斜方輝石や単斜輝石と判断せずに、輝石類と判断すること。	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合
敷地 地質・地質構造	鉱物組成	48	第553回	2018.3.2	斜長石のアルバイト化の検討が行われている場合は、その結果を示すこと。	2018.7.6審査会合
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (鉱物組成)	49	第553回	2018.3.2	S-2・S-6の固結した破砕部の薄片観察において、赤色の鉱物は斜方輝石であるかどうか確認しておくこと。	2018.9.21審査会合 2019.1.18審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価(方針)	50	第597回	2018.7.6	活動性評価においては、既往資料である有識者会合報告書の評価について説明した上で、それと異なる見解を採用した場合には、その根拠を明示すること。また、調査地点の代表性の観点から整理すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価(方針)	51	第597回	2018.7.6	活動性評価の方針について、申請時から今回までの経緯と変更内容について整理すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (海成段丘堆積物)	52	第597回	2018.7.6	海成段丘堆積物の認定について、えん堤左岸のデータも含め、最終的な海成段丘面の判断基準について整理すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (海成段丘堆積物)	53	第597回	2018.7.6	海成段丘堆積物の特徴として示すインプリケーションについて、能登半島の海岸などでの実例を示すこと。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	54	第597回	2018.7.6	鉱物脈のうち、最新面を明瞭に横断しているとした碎屑岩脈については、その形成された年代を明確に示すこと。 また、碎屑岩脈が低温下で形成されたものではないとする根拠についても示すこと。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	55	第597回	2018.7.6	鉱物脈のうち、粘土鉱物脈の評価については、まず、最新面を明瞭に横断していることを示すこと。その上で、粘土鉱物脈が形成された年代を明確に示すこと。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-1)	56	第597回	2018.7.6	S-1北西部の旧A・Bトレンチに近い個所で、信頼性の高いデータを取得すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-2・S-6)	57	第597回	2018.7.6	No.2トレンチのS-2・S-6の走向がS-2・S-6の一般走向とずれているが、No.2トレンチの断層をS-2・S-6と評価した根拠について説明すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-2・S-6)	58	第597回	2018.7.6	No.2トレンチの礫等の長軸の角度分布について、有識者会合の評価と異なっている点について説明すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-2・S-6)	59	第597回	2018.7.6	No.2トレンチの東傾斜の層理について、局所的な堆積構造と結論付けられているが、その根拠について説明すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-2・S-6)	60	第597回	2018.7.6	S-2・S-6周辺の岩盤上面の形状について、海側が隆起している傾向がないか、コンター図を作成するなどして説明すること。	2019.10.25審査会合
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-4)	61	第597回	2018.7.6	S-4北東部の延伸について、従来から評価を変えた点について、整理して明確に示すこと。	2019.10.25審査会合

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考	
			開催回	日付			内容
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-4)	62	第597回	2018.7.6	従来のS-4と35m盤トレンチの間の連続性を示すデータを整理して、35m盤トレンチでS-4とした断層が、従来のS-4から北東方に延長するものであることを説明すること。	2019.10.25審査会合	
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (K-2, K-3)	63	第597回	2018.7.6	K-2, K-3の活動性について、後期更新世以降の活動を明確に否定する証拠を示すこと。	2020.7.10審査会合	
敷地 地質・地質構造	断層の性状	64	第597回	2018.7.6	K-2, K-3について、全線が固結した破碎部というが、取水路トンネルでは粘土を含む破碎部があったり、ボーリングデータで割れている状況もある。深部方向のデータを充実すること。	2020.3.13審査会合	区分を「活動性評価(K-2, K-3)」から「断層の性状」に変更
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (K-2, K-3)	65	第597回	2018.7.6	K-2について、岩石が延性的に変形したとしており、これは高温環境と考えられるが、一方でアルバイト化はしておらず、高温環境ではないと評価している。変形の形態についても詳細な観察を行い、温度環境に矛盾がないように説明をすること。	2020.7.10審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (基礎データ)	66	第597回	2018.7.6	評価の基礎データである、ボーリングコア柱状図、コア写真、BHTV画像を提出すること。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	67	第627回	2018.9.21	評価対象断層の選定にあたって、選定の方針、考え方、前回からの変更内容が資料中に明示されていないため、その適切性が確認できない。これらについて、資料中に明確に記載すること。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	68	第627回	2018.9.21	評価対象断層の選定で、まず断層の分布形態を3つに分類しているが、その考え方が資料に記載されていないので、資料中に明確に記載すること。特に、検討②と③の違いについて明確にすること。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	69	第627回	2018.9.21	断層の分布形態から3分類して行っている検討のうち、検討③については、断層分布の規制と粘土状破碎部の分布からS-7及びS-8を選定しないと評価しているが、根拠としては十分ではない。S-7及びS-8を選定しない評価を続けるのであれば、科学的で客観的な根拠を示すこと。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	70	第627回	2018.9.21	断層の分布形態から3分類して行っている検討のうち、検討①と②については、分類して検討するのではなく、それぞれの断層の深さ方向の分布や運動方向等のデータも整理して個別に説明すること。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定	71	第627回	2018.9.21	評価対象断層の選定の結果を検証するために、破碎部の幅や粘土状破碎部の破碎性状の観点から、選定した断層がより活動的と評価しているが、これらの指標はより活動的な断層であるかを評価するための根拠としては十分ではない。これらの指標を検証として用いるのであれば、明確な根拠を示すこと。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (基礎データ)	72	第627回	2018.9.21	海岸部の断層の新旧関係の解釈に関して、根拠として示している会合部のデータについて、より客観的な観察結果を示すこと。	2019.1.18審査会合	
敷地 地質・地質構造	評価対象断層の選定 (基礎データ)	73	第627回	2018.9.21	資料の充実、適正化の観点から、 ・反射法・VSP探査結果について、解析精度に関する情報及びマイグレーション処理前後の図面を示すこと。 ・データ集のXRD分析結果について、試料採取位置の深度を記載すること。	2019.1.18審査会合	

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考		
			開催回	日付			内容	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	74	第627回	2018.9.21	ヒアリング時資料から本日の審査会合資料までに多くの誤記の修正を行っている。本日の審査会合資料についても修正しきれていない箇所がある。審査会合で適切な議論ができるよう、誤記等のない適切な資料を作成すること。	2019.1.18審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	75	第671回	2019.1.18	選定フローのステップ2において、走向で系統分けしているが、各断層の傾斜方向や運動方向、破碎部の性状を踏まえ、走向のみで系統分けができるとした根拠・プロセスを示すこと。	2020.3.13審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	76	第671回	2019.1.18	海岸部の断層評価について、取水路トンネルの既存の調査データや追加ボーリングデータなどにより、以下の点について、整理すること。 ・重要施設である取水路トンネルの設置面における断層の分布と評価対象とする断層の選定根拠 ・追加ボーリングで確認されている破碎部の連続性	2020.3.13審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	77	第671回	2019.1.18	K-2とK-1, K-4, K-5の新旧関係の評価を行うのであれば、会合部におけるひきずりや変位量、切り合い関係の整合性の点から、新旧関係を明確に判断できる根拠を示すこと。	2020.3.13審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	78	第671回	2019.1.18	K-5の延長方にある防潮堤基礎部の24ブロックの割れ目について、追加掘削により深部に連続しないと評価しているが、より鮮明なデータを示して説明性の向上を図ること。また、防潮堤設置時の法面写真について、写真の継ぎ目により断層の有無が判断できないため、断層の有無が判断できる資料を示すこと。	2020.3.13審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	79	第671回	2019.1.18	資料構成について、過去の審査資料を含め議論に必要な資料を提示するとともに、資料の重要度や使用目的に応じて、補足説明資料や参考資料に階層化するなどの見直しを行うこと。	2019.10.25審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(海成段丘堆積物)	80	第788回	2019.10.25	海成堆積物の認定根拠については、定量的に示す等、説明性の向上を図ること。えん堤左岸トレンチについては、石英粒子を含むことを根拠として用いるならば、根拠の妥当性について説明すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鉱物脈)	81	第788回	2019.10.25	XRD分析結果について、試料採取部の状況や試料調整等のプロセスを示し、鉱物脈との関係について考察すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鉱物脈)	82	第788回	2019.10.25	粘土鉱物(I/S混合層)の判定に、EPMA分析で得られた分析値を用いるにあたっては、分析位置、分析値の妥当性についても考察すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鉱物脈)	83	第788回	2019.10.25	粘土鉱物のEPMA分析値の中には、一般的な粘土鉱物に比べてアルやFeの値が大きいものもあることから、分析値が示す意味について考察すること。なお、Feのマッピングが示されていないため、追加で示すこと。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鉱物脈)	84	第788回	2019.10.25	断層ごとに鉱物脈で見られる変質鉱物に違いがあるかを確認するために、変質鉱物の分析結果を断層間で比較し、考察すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鉱物脈)	85	第788回	2019.10.25	鉱物脈法の評価において、最新面を明確に特定できない場合は、最新面の可能性のあるものについて、鉱物脈との関係を説明すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鉱物脈)	86	第788回	2019.10.25	断層破碎部や粘土鉱物の形成プロセスを模式図等で示すこと。	2020.7.10審査会合	

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考		
			開催回	日付			内容	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鉱物脈)	87	第788回	2019.10.25	砕屑岩脈については、形成過程も含め、検討状況について説明すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(鉱物脈)	88	第788回	2019.10.25	顕微鏡観察においては、鉱物の消光状況を確認したことがわかる顕微鏡写真を提示すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(S-1)	89	第788回	2019.10.25	S-1北西部の活動性評価を確実にを行うため、旧A・Bトレンチよりも海側における明確な物証も加え、評価を行うこと。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(S-4)	90	第788回	2019.10.25	35m盤トレンチの堆積物は、他の箇所と比べて厚さが薄いこと等から、周辺の分布状況も示した上で、上載地層としての妥当性について説明すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(S-4)	91	第788回	2019.10.25	35m盤トレンチで確認されたS-4に斜交する断層の評価については、上載地層との関係やS-4との交差部の状況の拡大写真等を示し、説明すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	活動性評価(S-5)	92	第788回	2019.10.25	S-5の過去の調査では粘土状破砕部が認められていることから、今回取得した薄片観察結果との整合性について、調査地点の妥当性も含め、説明すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	93	第849回	2020.3.13	K-2, K-16の分岐部については主部との離隔もあること、また、破砕部Ⅰ, Ⅱ, Ⅳについては取水路に分布するものもあることから、それぞれ個別の断層として扱い、選定手順に基づき評価対象断層とするか否かについて検討すること。		
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	94	第849回	2020.3.13	取水路に分布しないと評価している断層のうち、K-17, K-18, K-20, K-21について、調査位置が取水路位置から離隔していることによる不確かさも考慮し、これらが取水路に分布する断層か否かを判断すること。		
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	95	第849回	2020.3.13	K-4, K-5及びK-2の分岐部(破砕部B)の深部方向における断層配置や切断関係について整理し、説明すること。		
敷地	地質・地質構造	評価対象断層の選定	96	第849回	2020.3.13	系統区分のⅡ・逆系において、西傾斜と東傾斜で連続性等の分布の特徴が異なることから、傾斜方向も加味して別の系統として区分するか、もしくは、同系統として区分する妥当性について説明すること。		
敷地	地質・地質構造	全般	97	第849回	2020.3.13	過去に提示しているボーリング柱状図のうち、S-1の深部方向のボーリングなどこれまでの審査会合においてデータ集として添付していないものについては、データ集として提出すること。	2020.7.10審査会合	
敷地	地質・地質構造	全般	98	第849回	2020.3.13	過去のシーム調査時からの変更点など柱状図の記載内容の変遷について、記載すること。	2020.7.10審査会合	

■ : 回答完了 □ : 今回回答 □ : 次回以降回答

区分		No.	コメント		回答	備考
			開催回	日付		
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	99	第875回	2020.7.10	活動性評価に用いている鉱物脈が敷地に広く分布していることを確認する観点から、敷地内のどこにどのような鉱物が確認されているかを整理して示すこと。	
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	100	第875回	2020.7.10	敷地内における変質鉱物等の直接的な観察結果に基づき、それらの生成順序について説明すること。	
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	101	第875回	2020.7.10	鉱物脈法に用いている碎屑岩脈の固結の程度について説明すること。また、薄片観察において、I、II等と分帯しているもののうち、どこが粘土状破砕部なのか分かるように資料に記載すること。	
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	102	第875回	2020.7.10	敷地周辺に分布する穴水累層中の変質鉱物について、客観的な観察事実に基づき、敷地と同じような変質の状況が敷地周辺に広範囲で認められること及び鉱物脈の生成時期が古いことを説明すること。	
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (鉱物脈)	103	第875回	2020.7.10	鉱物脈法による評価においては、空隙等の乱れの影響を受けていない薄片を用いること。	
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (K-3)	104	第875回	2020.7.10	K-3の活動性評価において、後期更新世以降の活動がないと評価した考え方を再整理して説明すること。	
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (海成段丘堆積物)	105	第875回	2020.7.10	礫の形状を用いた海成堆積物の評価において、礫の採取時や解析の際に用いる礫の大きさを規定した根拠について、資料に記載すること。	
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (海成段丘堆積物)	106	第875回	2020.7.10	礫の形状による解析を行う際には、侵食されにくい極端に大きな礫の影響も考慮し、同程度の礫の大きさで比較した場合についても考察すること。	
敷地 地質・地質構造	活動性評価 (S-4)	107	第875回	2020.7.10	35m盤トレンチと35m盤法面の堆積物の比較において、例えば針貫入試験等の定量的なデータを加えて、堆積物の広がりについての説明性を高めること。	